

## 県内経済 〈12月〉

### 概況

県内経済は、全体として回復の動きが足踏みしている

木材の生産は製材品で大型工場の稼働により前年を大幅に上回っているものの、電子部品は前年を下回り、機械金属も低迷が続いている。建設は、公共工事、住宅着工ともに前年を下回った。個人消費は全体として弱い動きとなっている。雇用情勢は弱含んでいる。

産業別の動向では、電子部品の生産額は、車載向けで欧州を中心とする電気自動車（EV）の普及鈍化などにより減少に転じたことから、11か月ぶりに前年を下回った。機械金属の生産額は、中国での価格競争激化や欧州での販売不振など海外需要の低迷から、10か月連続で前年を下回った。木材の生産量は、普通合板（11月）が6か月連続で前年を下回ったが、製材品は大型工場の稼働により11か月連続で前年を上回った。公共工事請負額は、2か月連続で前年を下回ったが、年度累計では前年を上回っている。地元大手（12社）の建設受注額は、

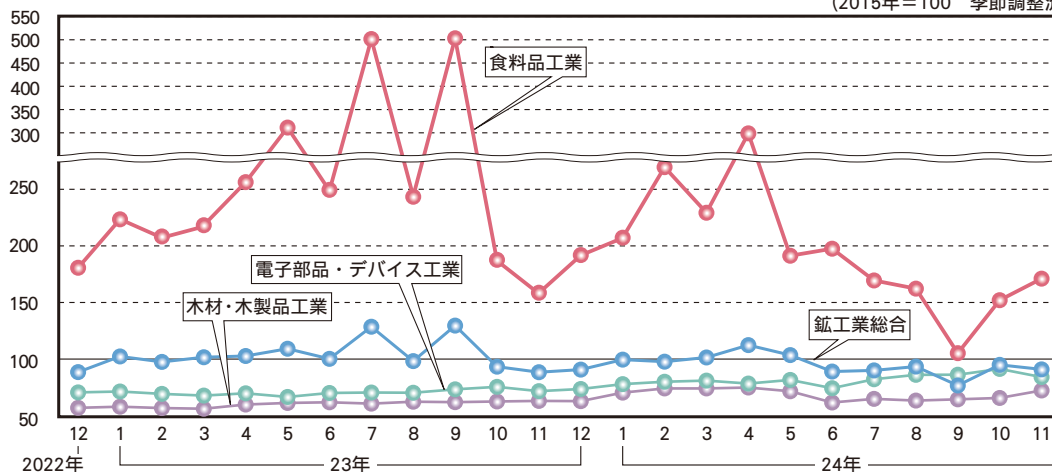
官公庁工事が振るわず、2か月ぶりに前年を下回った。住宅着工は、2か月ぶりに前年を下回った。個人消費は小売店販売額（11月）が5か月ぶりに前年を上回ったが、新車乗用車販売台数は5か月連続で前年を下回り、全体として弱い動きとなっている。

有効求人倍率は前月比 0.03ポイント低下の 1.23倍となった。新規求人数は前年比 4.8%減となり、5か月連続で前年を下回った。事業主都合離職者数は前年比 127.2%増となり、2か月ぶりに前年を上回った。

企業倒産件数は3件、負債総額は 8,900万円であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移

(2015年=100 季節調整済)



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」

## 電子部品

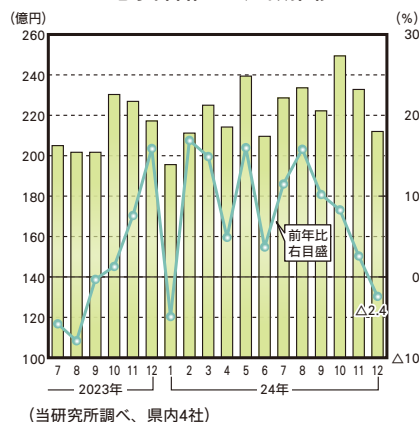
生産額、11か月ぶりに前年比減少

12月の生産額は前年比2.4%減となり、11か月ぶりに前年実績を下回った。

スマートフォン向けやその他民生機器向けは好調を維持しているものの、増加傾向が続いていた車載向けが、欧州を中心とする電気自動車（EV）の普及鈍化などにより減少に転じたことから、総体では大幅減となった。その他品目別では、主力のセラミックコンデンサやコイル、半導体素子は横這いから減少傾向となっている。液晶パネルは増勢が続いている。

なお、10-12月期は前年同期比2.9%増、2024年通期は同7.9%増となった。

電子部品の生産額推移



## 機械金属

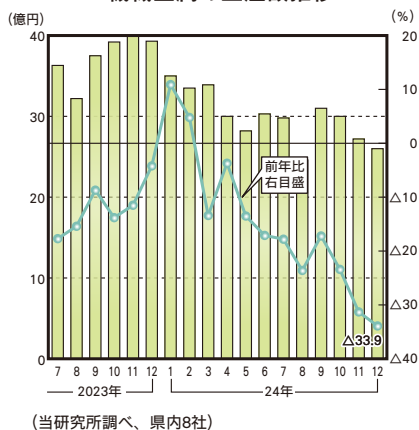
生産額、減少止まらず

12月の生産額は前年比33.9%の大幅減となり、10か月連続で前年実績を下回った。

ウエイトの高い輸送機械は、中国での価格競争激化や欧州での販売不振など海外需要の低迷から、大きく落ち込んだ。その他民需関連では、建機部品は好調を継続しているが、増勢が続いていた産業機械は一服感がみられる。金型は一進一退の動きが続いている。公共工事関連は、水道部品は堅調に推移しているものの、橋梁・鉄骨は減少傾向が続いている。

なお、10-12月期は前年同期比29.6%減、2024年通期は同15.8%減となった。

機械金属の生産額推移



## 木材業

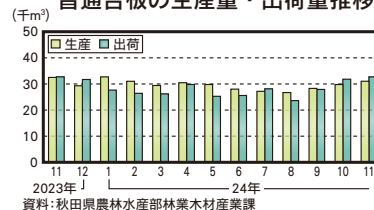
普通合板が6か月連続で前年比減少

新設住宅着工の低迷による需要不足から、全国的には木材・木製品の生産・出荷量の伸び悩みが続いているが、本県では大型製材工場稼働により、製材の供給増が続いている。

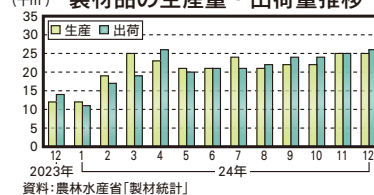
11月の普通合板は、2022年10月末に発生した地元大手の工場火災による落ち込みと、復旧にともなう反動増が一巡したことにより、生産量は前年比4.5%減、出荷量も同0.1%減といずれも6か月連続で前年を下回った。

12月の製材品は、昨年1月に県北の大型製材工場が稼働開始したことによらない、生産量が前年比108.3%増、出荷量も同85.7%増と、ともに11か月連続で前年を大幅に上回った。

普通合板の生産量・出荷量推移



製材品の生産量・出荷量推移



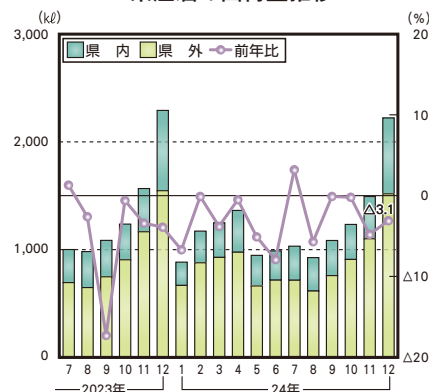
## 酒造業

### 出荷量、前年割れ続く

12月の清酒出荷量は、前年比3.1%減と5か月連続で前年を下回った。出荷先別では、県内向けは同5.5%減、県外向けも同1.9%減と、ともに前年を下回った。県外の主な出荷先別では、北海道は同5.2%増、東北5県も同2.8%増となったが、東京が同8.4%減となった。種類別では、普通酒は同5.5%減、特定名称酒は同0.6%減と、ともに前年を下回った。特定名称酒の内訳では、純米酒が同4.7%増となったが、本醸造酒は同6.6%減、吟醸酒も同2.9%減と前年を下回った。

2024年の年間清酒出荷量は前年比2.9%減となり、減少幅は前年の3.4%減と比べて縮小した。

県産酒の出荷量推移



資料：秋田県酒造組合

## 建設業

### 公共工事 国、県等が減少し前年を下回る

12月の公共工事請負金額は、国、県、市町村が減少し、前年比5.2%減と2か月連続で前年を下回った。4月からの年度累計実績は前年同期比10.8%増となった。

一方、当研究所調査による地元大手12社の12月の新規受注額は、前年比10.7%減の1,103百万円と2か月ぶりに前年を下回った。

うち官公庁工事は、大口受注がなく同52.7%減、民間工事は、自動車販売店新築工事の大口受注があり、同70.0%増となった。4月からの年度累計実績は前年同期比9.6%増となった。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区分	12月	前年比	4～12月	前年同期比
件数	63	Δ22.2	2,037	Δ2.0
請負金額	4,881	Δ5.2	148,964	10.8

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区分	12月	前年比	4～12月	前年同期比
官公庁	384	Δ52.7	13,304	15.3
民間	719	70.0	6,208	Δ1.1
合計	1,103	Δ10.7	19,512	9.6

(当研究所調べ、県内12社)

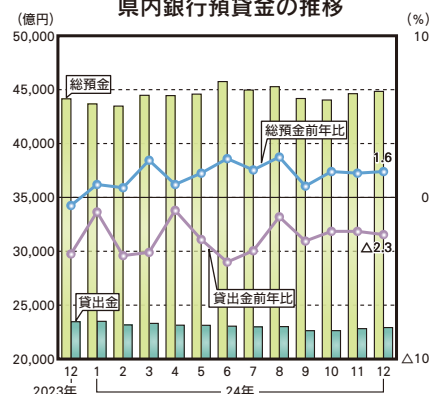
## 金融

### 貸出金の伸び率、前年割れ続く

12月末の県内銀行の預金は、前月末比214億円増加し、前年比でも1.6%の増加と12か月連続で前年を上回った。貸出金は、前月末比101億円増加したものの、前年比では2.3%の減少と17か月連続で前年を下回った。

12月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は3件(前年比5件減)、負債総額は8,900万円(同96.6%減)となった。2024年の年間倒産件数は57件(前年比7件増)で、直近10年間で最多となった。負債総額は43億9,200万円(同50.9%減)となり、負債額1億円未満の小口倒産が約8割を占めたほか、10億円を超える大型倒産が発生せず、前年を大きく下回った。

県内銀行預貸金の推移



資料：秋田県銀行協会

## 住宅着工

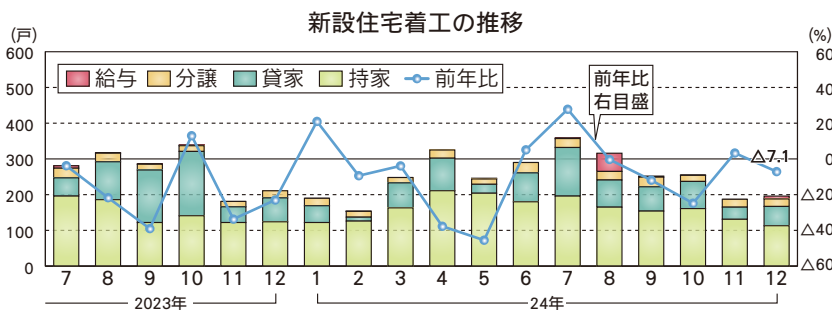
着工戸数、2か月ぶりに前年比減少

12月の県内新設住宅着工戸数は、196戸（前年比15戸減、7.1%減）であった。分譲住宅と給与住宅は増加したものの、主力である持家に加え貸家が減少したため、2か月ぶりに前年を下回った。

利用関係別では、持家が113戸（前年比11戸減）、貸家が54戸（同13戸減）、分譲住宅が21戸（同1戸増）、給与住宅が8戸（同8戸増）となった。

2024年通年の県内新設住宅着工戸数は3,018戸（前年比431戸減、12.5%減）となり、2年連続で前年を下回った。

利用関係別では、持家（1,926戸）は引き続き低水準ながらも3年ぶりに前年を上回った。一方で、貸家（769戸）は由利地域や北秋田地域などで大幅に減少し、3年ぶりに前年を下回った。分譲住宅（255戸）も2年連続で前年を下回った。



資料：秋田県建築住宅課

住宅着工動向 (単位：戸、%)

区分	2024年12月	前年比	24年1~12月	前年比
県北	30	△34.8	581	△21.1
県央	122	△15.3	1,803	△10.0
県南	44	109.5	634	△10.7
合計	196	△7.1	3,018	△12.5

資料：秋田県建築住宅課

## 個人消費

全体として弱い動きとなっている

11月の小売店(商業動態統計主要6業態)販売額は、前年比2.0%増となり、5か月ぶりに前年を上回った。

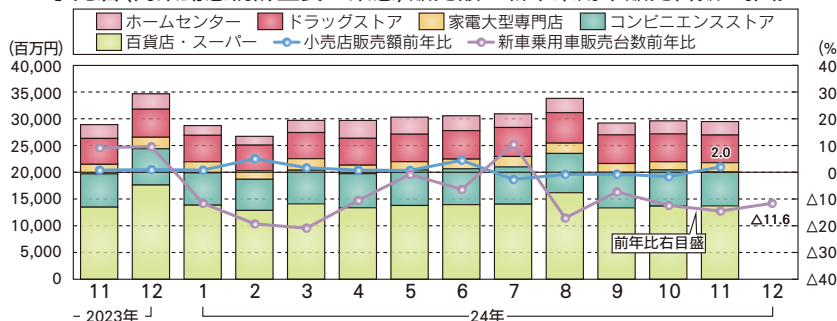
内訳をみると、家電大型専門店（前年比2.9%減）、ホームセンター（同2.3%減）は前年を下回ったものの、ドラッグストア（同6.8%増）、百貨店・スーパー（同1.8%増）、コンビニエンスストア（同1.8%増）で前年

を上回った。

12月の新車乗用車販売台数は、新たな保安基準への適合が遅れた一部車種の生産停止の影響などを受け、前年比11.6%減と5か月連続で前年を下回った。

内訳をみると、登録車が同9.9%減と5か月連続で前年を下回ったほか、軽乗用車も同13.7%減と3か月連続で前年を下回った。

小売店(商業動態統計主要6業態)販売額・新車乗用車販売台数の推移



資料：経済産業省、秋田県自動車販売店協会

12月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	2,005	△11.6
登録車	1,129	△9.9
普通車	674	△1.5
小型車	404	△21.4
輸入車	51	△7.3
軽乗用車	876	△13.7

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標(前年比) (単位：%)

区分	2024年9月	10月	11月
①消費者物価指数	2.0	1.7	2.7
②勤労者名目賃金	△1.0	0.1	4.3

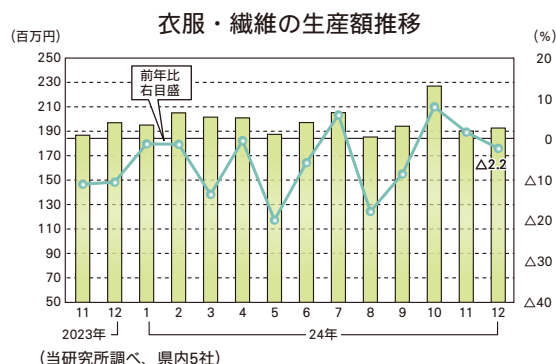
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）  
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、3か月ぶりに前年比減少

12月の生産額は、前年比2.2%減となった。百貨店等の紳士服販売の伸び悩みなどが影響し、3か月ぶりに前年を下回った。

受注は、前年に比べてロット数が減少傾向にあることなどから、10か月連続で前年を下回った。また、最低賃金等の人件費の増加により収益は減少傾向にある。



雇用

弱含みの動き

12月の有効求人倍率（季調値）は、前月比0.03ポイント低下の1.23倍となった。常用の内訳では、一般は同0.02ポイント上昇の1.48倍、パートは同0.05ポイント低下の0.87倍となった。

新規求人数は前年比4.8%減となり、5か月連続で前年を下回った。産業別にみると、製造業は同13.8%増となった。「電気機械器具」で新工場設立にともなう軽作業員の大口求人があったほか、「食料品」でも需要増加にともない求人が増加するなど、全ての業種で増加した。非製造業は同6.9%減となった。「教育、学習支援」で増加した

ものの、「卸売、小売」でスーパーからの求人が物価高騰の影響などから減少したほか、「医療、福祉」でも介護事業からの求人が燃料費や人件費高騰の影響により減少した。

新規求職者数は前年比1.9%増となり、5か月ぶりに前年を上回った。

事業主都合離職者数は前年比127.2%増となり、2か月ぶりに前年を上回った。

地域別雇用状況（パートを含む常用）をみると、新規求人数は県北、県央、県南でいずれも減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.35倍、県央が1.30倍、県南が1.04倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数（全数）

区分	2024年11月		12月		
	前年比	前年比	前年比	前年比	
新規求人計	6,425	△5.2	6,325	△4.8	
製造業	735	△15.9	759	13.8	
主要業種の内訳	食料品	108	△17.6	113	9.7
	繊維	95	△18.8	141	22.6
	木材・木製品	24	△56.4	42	44.8
	金属製品	44	△17.0	78	1.3
	電子部品・デバイス・電子回路	124	△13.9	74	131.3
	電気機械器具	23	△34.3	63	40.0
	非製造業	5,690	△3.6	5,566	△6.9
	建設	912	6.3	1,053	△1.5
	運輸、郵便	263	△22.0	262	△8.1
	卸売、小売	898	△7.5	680	△26.3
宿泊、飲食サービス	380	△3.8	386	△13.8	
生活関連サービス、娯楽	140	△42.4	148	△26.4	
教育、学習支援	111	△2.6	87	11.5	
医療、福祉	1,364	△2.8	1,384	△6.7	
サービス	966	21.1	827	△12.3	
新規求職者数	3,109	△5.6	3,441	1.9	
有効求職者数	14,462	△2.5	14,555	△0.4	

(単位：人、%)

資料：秋田労働局職業安定課  
(注) 臨時・季節を含む

有効求人倍率および事業主都合離職者数

区分	2024年9月 10月 11月 12月				
	前年比	前年比	前年比	前年比	
有効求人倍率	一般	1.44	1.41	1.46	1.48
	パートタイム	0.93	0.95	0.92	0.87
	全数(季調値)	1.27	1.24	1.26	1.23
事業主都合離職者数		128	192	129	334
前年比		△29.3	53.6	△11.6	127.2

(単位：倍、人、%)

12月の地域別雇用状況（パートを含む常用）

区分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比	前年比	前月比	前月比
県北	1,539	△0.3	1.35	0.01
県央	2,642	△11.2	1.30	△0.01
県南	1,276	△4.5	1.04	△0.01
合計	5,457	△6.8	1.24	△0.01

(単位：人、%、倍、ポイント)

(注) 臨時・季節を除く